

事例研究報告

小学部児童の
スケジュールに沿って朝の活動が
できるようになるための指導について

児童・生徒の実態

- 小学部児童 自閉症 知的障がい
発達年齢:1歳3カ月
- 日常生活で使う簡単なことば「いす」「すわる」「ちょうだい」などの指示に従うことができる。
- 「体操服を見ると着替えに応じる」「靴を見せると履く」「エプロンで食事の時間がわかる」など、具体物で次の活動がわかる。
- 写真カードや絵カードのマッチングはできるが、スケジュールとしてそれらが示す意味や行動はわかっていない様子。写真カードを提示しながら朝の活動を教員と一緒にいき、誘導や身体ガイダンスに応じ協力動作をすることができる。
- 活動の途中で興味のある方へ行ったり、甘えて寝転がったり、苦手な活動ややりたいことを制止されたときや突然に癇癢を起こし、暴れたり自傷や他害が出たりすることがある。

保護者の願い

- ・落ち着いて学校生活を送ってほしい。

教員の願い

- ・朝の活動時，活動内容がわかり，落ち着いて活動に取り組めるようになってほしい。
- ・ひとりでできることを増やしたい。



アドバイザーからの助言

①活動の流れが切れないようにしましょう！

活動のサイクル(トランジッションカードを受け取る→トランジッションコーナーへ行ってトランジッションカードを入れる。→スケジュールカード+具体物を持つ→活動場所へ行って活動する。トランジッションカードを受け取る。)このサイクルを増やしていく。

②しっかりほめましょう！

はじめはプロンプトは多くてもよい。

興奮しすぎない褒め方をする。ご褒美をあげる際に、本人がわかる褒めことばや褒め方を同時にする。

③できることをひとつずつ増やしましょう！

最終目標はひとりでできること。目標を細かく設定してひとりでできることを増やしていく。

助言を受けての見直し①

①活動の流れが切れないようにしましょう！

<助言前>

・対象児がトランジションコーナーへ行った時に、教員が次の活動の提示(具体物を置く)をしていたため、対象児を待たせてしまうことがあった。

<助言後>

・ひと続きの活動のサイクルを意識し、次の活動の準備ができてから、対象児にトランジションカードを渡すようにする。

助言を受けての見直し②

②しっかりほめましょう！



<助言前>

- ・一つ一つの動きができるごとにご褒美(お菓子)を渡す。
(サイクルの中で複数回大きなご褒美がある)

<助言後>

- ・活動の合間に言葉でのほめ「そう」「上手」などを言うことで「できているよ」ということのフィードバックをする。
- ・一つのサイクルが終わってからご褒美をあげる。



助言を受けての見直し③

③できることをひとつずつ増やしましょう。

<助言前>

- ・一つ一つの活動の中で、多くの課題に取り組んでいた。

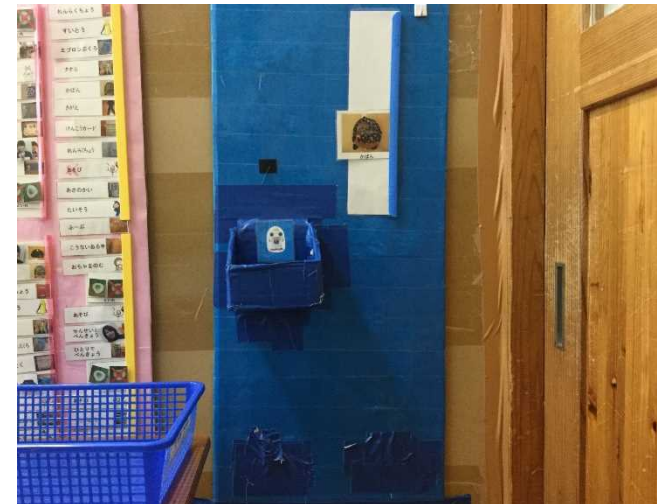
<助言後>

- ・課題分析の結果から達成できそうな課題を選択し、少しずつプロンプトを減らしていくことで、自分でできるようにする。

指導の手続き

- 指導場面：登校後の朝の活動場面（教室）
- 対象児の朝の活動の行程
 - ① 鞆を置いて中身を出す
 - ② タオルを掛ける
 - ③ 着替えコーナーに行き，着替える
 - ④ 鞆を片付ける
 - ⑤ 連絡帳にシールを貼る
 - ⑥ 保健室へ行く（与薬のため適宜）
 - ⑦ トイレに行く
 - ⑧ 遊びコーナーへ行く

※活動の順番や数の変更あり



記録方法

各項目の支援度合いを
○, △, ×で評価する。

○: 支援なし

△: 指差し, ことばかけなどの
支援あり

×: 誘導, 身体的ガイダンス
などの支援あり

●: 逸脱(指導目標②)

※特記事項があれば枠内
又は下欄に設けた枠に記入。

	日付	/	/
①登校後トランジションコーナー	△	△	×
②トランジションコーナー (タオルを掛ける)	△	△ 落とす	×
③トランジションコーナー (着替えコーナーへ行く)	×	×	×
⑥トランジションコーナー (遊びコーナーへ行く)	×	○	×
○の回数			
△の回数			
○と△の合計			0
備考		着替え後不 安定	

指導目標①

スケジュールに沿って朝の活動ができるようになるために、まずはトランジッションカードの使用が身に付くことに照準を絞った。

「朝の活動時トランジッションカードをもらおうと、トランジッションコーナーに行くことができる。」(9月1日～)

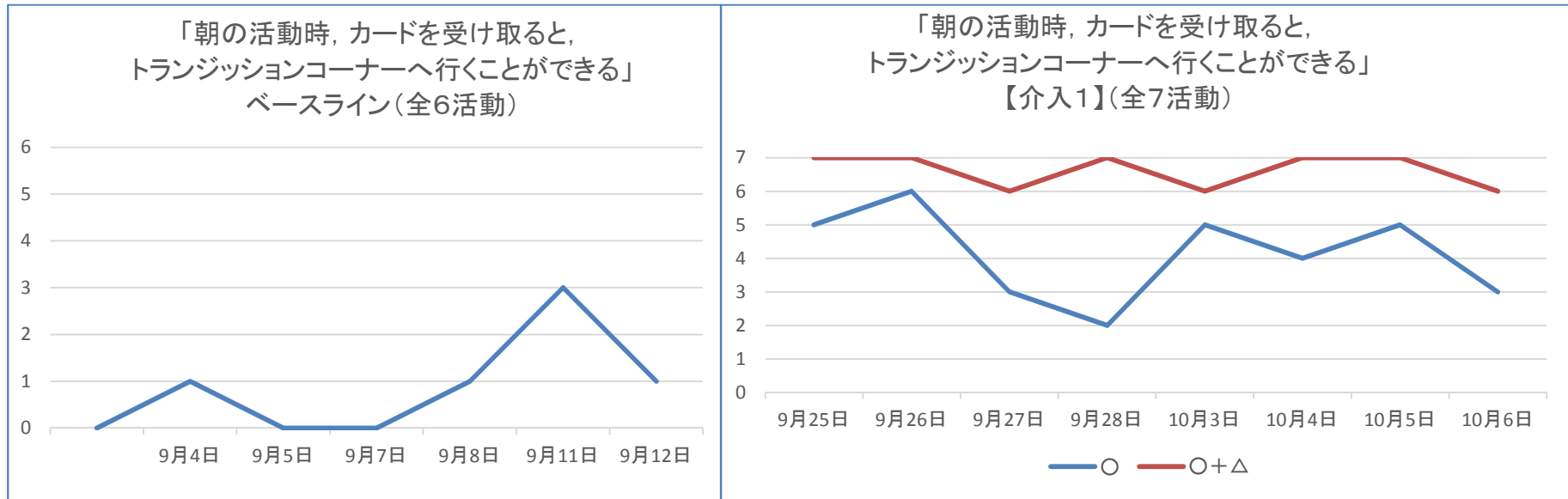
〈指導の手続き〉

【介入1】

・トランジッションカードを渡した後、身体ガイダンスや指さしなどのプロンプトを多く入れ、活動の流れを切らさないようにする。
(対象児にトランジッションカードを渡す前に準備を整えておく。)



指導目標①の成果1



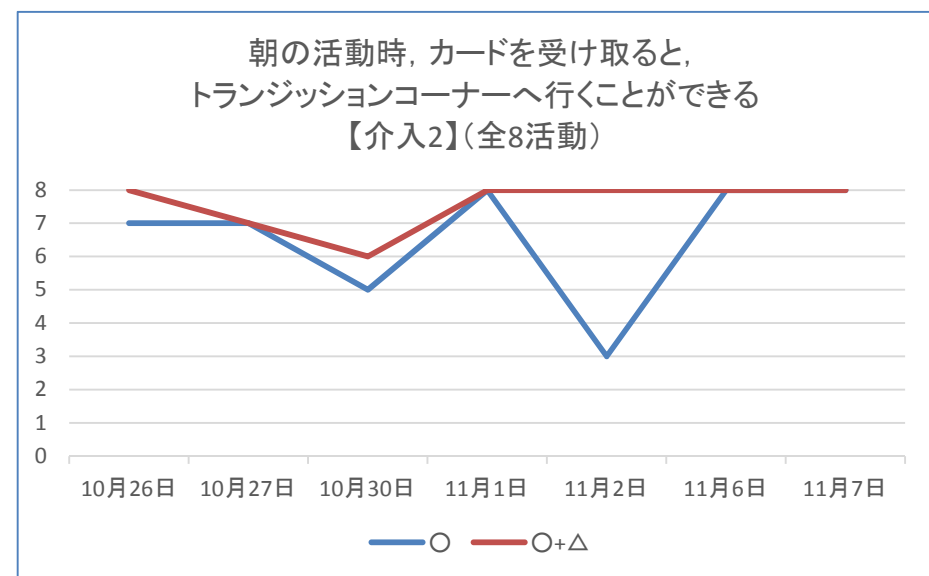
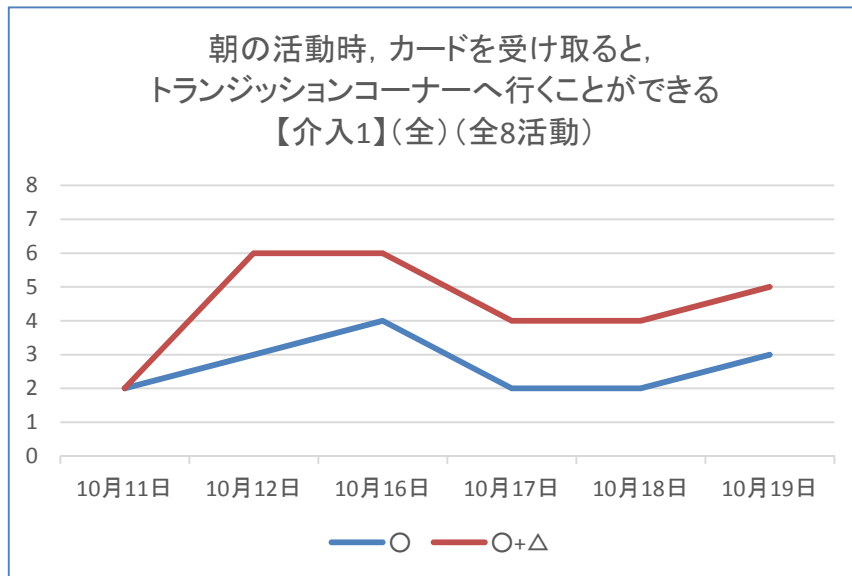
- ・活動が終わるごとに, 一緒にトランジッションコーナーへ行き, 手を添えてカードを入れる支援を行いほめた。
- ・流れを切らさないようにすることで, ひとつの活動ごとのまとまりができ, 活動にメリハリが付いた。徐々にトランジッションカードの使い方がわかるようになってきて, 指差しありからプロンプトなしで一人ですトランジッションコーナーへ行けるようになり, 箱の中に自分でカードを入れることができるようになった。

指導目標①の成果2

後期(10月10日～)が始まってから、朝から機嫌が悪く、突然痙攣を起こすことが増え、トランジションコーナーに行くことができても活動に応じることができなくなった。

【介入2】

・活動と活動の間にスケジュールで「プレイコーナー」への休憩を入れる。



3分～5程度の休憩を入れることで、気持ちの切り替えができ、落ち着いて活動に取り組むことができるようになった。

指導目標②

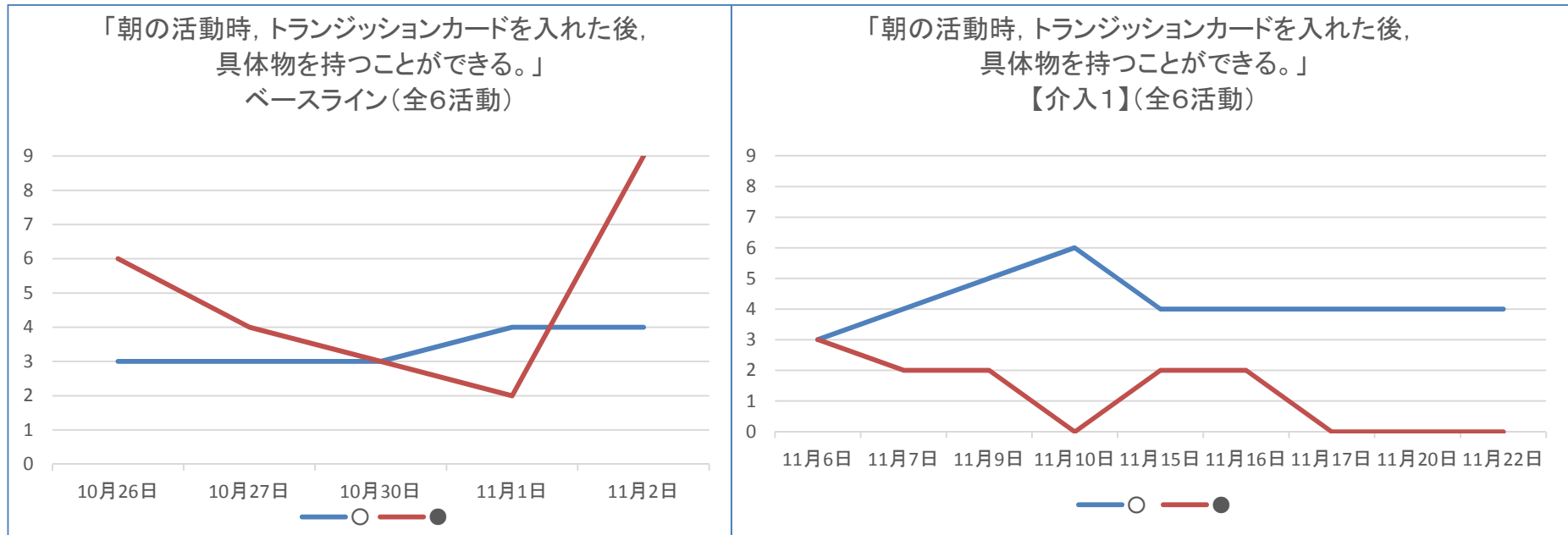
トランジッションカードを箱に入れた後の活動に照準を合わせて指導目標②を立てた。

「朝の活動時、トランジッションカードを入れた後、具体物を持つことができる。」(10月23日～)

〈指導の手続き〉

- ・トランジッションコーナーの近くに具体物を置いておく。
- ・指導目標①と同様、スケジュールカードを見た後、身体ガイダンスや指さしなどのプロンプトを多く入れて指導する。
- ・活動と活動の間にスケジュールで「プレイコーナー」への休憩を入れる。
- ・1つのサイクルが終わると褒める+ご褒美のお菓子あり

指導目標②の成果



- ・朝の活動時の逸脱や突然癇癢を起すことが減り, すべての活動に落ち着いて取り組むことができるようになった。
- ・スケジュールのシステムがわかり, それぞれの朝の活動についても部分的にできることが増えてきた。

指導目標③

一人でできることをひとつずつ増やしていくために、指導目標③として朝の活動の記録表より達成できそうな4項目を選び、課題分析をして1月より取り組んでいる。

選んだ項目

「カバンの中から荷物を出す」

「タオルを手洗い場のかごに入れる」

「着替えをする」

「連絡帳にシールをはる」

ここが成功のポイント

★活動のサイクルを意識し，児童にとって分かりやすい環境を整えた。

★記録をもとに，課題分析から達成できそうな活動に照準を絞って指導目標を立て，小さなできることを積み重ねた。

★授業に入っている教員が，同じ認識を持って同じ支援が行えるよう，定期的に共通理解を図った。

